

非正規就職

アラサー世代は アラフォーの2.5倍

30歳前後の「アラサー」世代の人は、最初の就職が非正規雇用だった割合が、40歳前後の「アラフォー」世代の2.5倍。大阪商業大JGSS研究センターの調査で28日までに、こんな実態が明らかになった。世代間の雇用機会の落差が顕著に表れた形だ。

大阪商業大が調査

「結婚・少子化に影響も」

調査は昨年1～3月、後半世代(71～75年生まれの男女を対象に実施。回答した2727人を①アラフォー世代(1966～70年生まれ)②30代中

用だった割合は、アラフォーが8.3%だが、アラサーは21.3%に跳ね上がる。30代中後半は中間の13.7%だった。フリーターを経験したことがあるかとの質問でも、アラフォーは男女とも21.8%だったが、アラサー世代は男性が33.7%、女性は39.9%。調査をした岩井紀子・同センター長は「最初の就職が非正規雇用だと、その後転職を繰り返す傾向がある。若い層の不安定な就業状況が結婚や少子

化に影響を与えているのではないかと指摘する。調査ではこれからの日本のあるべき姿についても質問。51.5%の人が「福祉重視の北欧型」と回答し、「かつての日本のような終身雇用を重視」も34.0%。「競争

10.8%にとどまり、安定した生活を求める意識がうかがえた。